

## 国際専門研修プログラム 「国際シンポジウムおよび海外臨地研修」

2014年8月21日から26日の日程で、学術協定関係にある三峡大学（中国湖北省）との間で国際シンポジウムおよび海外臨地研修を実施しました。参加学生は大学院修士課程の学生1名と学部生9名、引率者は本学農学部田村廣人教授、山岸健三教授、汪光熙教授と荒川征夫准教授の4名で、計14名の参加となりました。参加者らが日本を発った翌日の22日には合同シンポジウムが開催されました。シンポジウムへの参加者は70名を超え、計10題の講演のうち本学からは引率教員4名と大学院生1名が約30分ずつ発表しました。23日の午前には現地の学生ボランティアらとともに、三峡ダムを視察し、揚子江に建造された世界最大規模のダムが及ぼす経済効果や生態系への影響等についての国際的な視点を含め、参加者間で意見を交換しました。同日の午後には、生態農業の検証現場である畜産廃棄物等利用によるバイオエネルギー生産（メタンガスの利用）のモデル施設などを視察しました。24日の午前には水田地帯を中心に、都市近郊農業と農業水利施設を視察しました。同日の午後には荊州博物館等を視察し、訪問地域の歴史的・文化的背景を学び、さらに宜昌市北部の溪谷地域において湖北省に特有な植物の観察会を開催しました。これらの行程の後、上海を経由して26日に無事帰国しました。本プログラムは、両大学における学術的情報交換に加え、本学部・研究科での教育研究をより充実させるにあたり、意義のある開催となりました。

今回の国際専門研修は、参加学生と引率教員が協力するだけでなく、受け入れ側の三峡大学教職員と学生ボランティアによる大きな支援によって充実するものとなりました。特に、日本語学科の学生ボランティアによる中国語－日本語の通訳が行われたことで、参加者同士の交流が非常に深まりました。本プログラムの成果は10月9日(木)にN-304教室で開催予定の「国際専門研修プログラム報告会」にて報告されます。



シンポジウム開始前の記念撮影



磯前先生のお手紙を代読している山岸先生



シンポジウム会場の風景



三峡大学キャンパス内での集合写真



メタンガス利用現場を視察している田村先生



農家訪問



水田地帯での現地調査



三峡大学体育館での太極拳の披露



中国茶文化の体験